

自然体験村を作ろう！ 環境・スキルを活かしたマチづ くり

環境・スキルを活かしたマチづくりの会
代表 上田 輝美

発表内容

A. 会の紹介

B. 活動内容

とりぎん青い鳥基金 採択事業(2021年9月～2022年9月)
自然体験村を作ろう！環境・スキルを活かしたマチづくり

2022年1月～9月30日期間分

C. 活動背景

なぜとりくむのか 活動に至る経緯 課題

A. 会の紹介

会の目的

活動を通し人々を結び付け
相互に地域の活性化を図るとともに、
自然体験の場の醸成により社会に資する

会員

- ・活動拠点地内居住者(10名)
町外(含む県外)(11名)
- ・大人(18名)
小学生以下(3名)

活動主旨

会員個々の「環境」と「スキル」
を活かす

できる人ができる時に
できる範囲で行う

例:企画、講座運営、土地貸与、販売品の
準備・採取、土地貸与、活動の客観的検証
(アンケート回答)、受講者としての活動参加

B. 活動内容

2022年1月～9月30日 会員非会員 計202名の参加

分類	項目	内容 (出):出前講座	活動日	参加者 () 内:担当者数									
				会員		非会員(受講者等)			計				
				大人	計	大人	幼小	計	大人	幼小	合計		
A. 体験講座	A-1) 工作講座	(出)ジオラマ	22/4/2,3	14	(13)	14	51	(12)	53	104	65	53	118
		梱包ボックス	2022/2/23,9/3										
		夏休み工作(ランプ・竿)	2022/8/15										
		(出)夏休み工作	2022/8/20										
	A-2) 自然体験	山歩き・素材採取	2021/12/4(中止)	14	(13)	14	51	(12)	53	104	65	53	118
		栗拾い	2022/9/11										
A-4) 釣り竿作り		2022/8/15,9/3	14	(13)	14	51	(12)	53	104	65	53	118	
A-5) コイ・ハゼ釣		2022/8/15,9/3,/23											
A. 体験講座 計				14	(13)	14	51	(12)	53	104	65	53	118
B. ホタル池・周辺整備	B-1) ホタル池整備 関連	水質調査、池作成、視察等	2022/6/6~8/	44	(21)	44	13	(9)	4	17	57	4	61
		芝生公園づくり	2022/6/6~6/19										
	B-2) ベンチ制作	表面処理・塗装	2022/8/										
		板切断加工・塗装	2022/9/										
		組立・調整	2022/9/										
	B-3) ハーブ植栽		2022/9/										
B. ホタル池・周辺整備 計				44	(21)	44	13	(9)	4	17	57	4	61
C. 収益・広報活動	C-1) フリマ・講座での販売		2022/3/19,20等、計7回	23	(15)	23	0	(0)	0	0	23	2	23
	C-2) フリマアプリ出品・販売(栗・素材等)		22/1~22/9										
	C-3) 販売用素材採取/グッズ作成		22/1~22/9										
	C-4) 広報	とりぎん文化会館22/1/30(中止) 取材、新聞記事掲載(10、12月)											
	C. 収益・広報活動 計				23	(15)	23	0	(0)	0	0	23	0
A B C 計				81	(49)	81	64		57	121	145	57	202

A.体験講座

活かす

「環境」 土地、植生樹木、周辺環境から飛来する枝・葉、持山
「スキル」 工作、木工、釣りざお作り、講座企画運営



梱包ボックス作り講座



(出)夏休み工作講座



コイ・ハゼ釣り講座



釣り竿作り講座



(出)ジオラマ講座

社会貢献
地域内外の交流
会員のスキルアップ

B.ホタル池.周辺整備

活かす

「環境」 独自水源利用可能な居住環境

「スキル」 建築設計・施工、木工、エクステリア



B-1)ホタル池整備関連

B-2)ベンチ制作

B-3)ハーブ植栽



採水風景



芝生植え付



ベンチパーツ ベンチ作成



ハーブ苗



水質調査



レンガ敷



ミニ公園の完成



ベンチ設置



ハーブ植付

公園のない地の公共の場、オアシス
災害時、水・食物確保可能な水場環境の醸成
自治会のない地の防災

C.収益・広報活動

活かす

「環境」 会員が栽培する果物・ハーブ苗等、風で飛来してくる枝・葉等
「スキル」 園芸・剪定、接客、フリマアプリ経験、スマホ操作



フリマ(屋外)風景



自然素材販売



計量



フリマ(屋内)風景



ハーブ苗販売



フリマアプリでの出品・販売

2021年9月～2022年9月収益

A.体験講座受講費	22,680円
C.収益・広報活動	6886円
AC計	29,566円

C. 活動背景

なぜとりくむのか 活動に至る経緯 課題

1. **そこに住み続けることができる「マチ」か**
高齢者が1人でも、災害時孤立しても2, 3日は大丈夫か
2. **「マチ」づくり、何人・何が必要？**
1人2人では？
3. **自治会がない地の「マチ」づくり**
「マチ」ってなんだろう

活動の原点

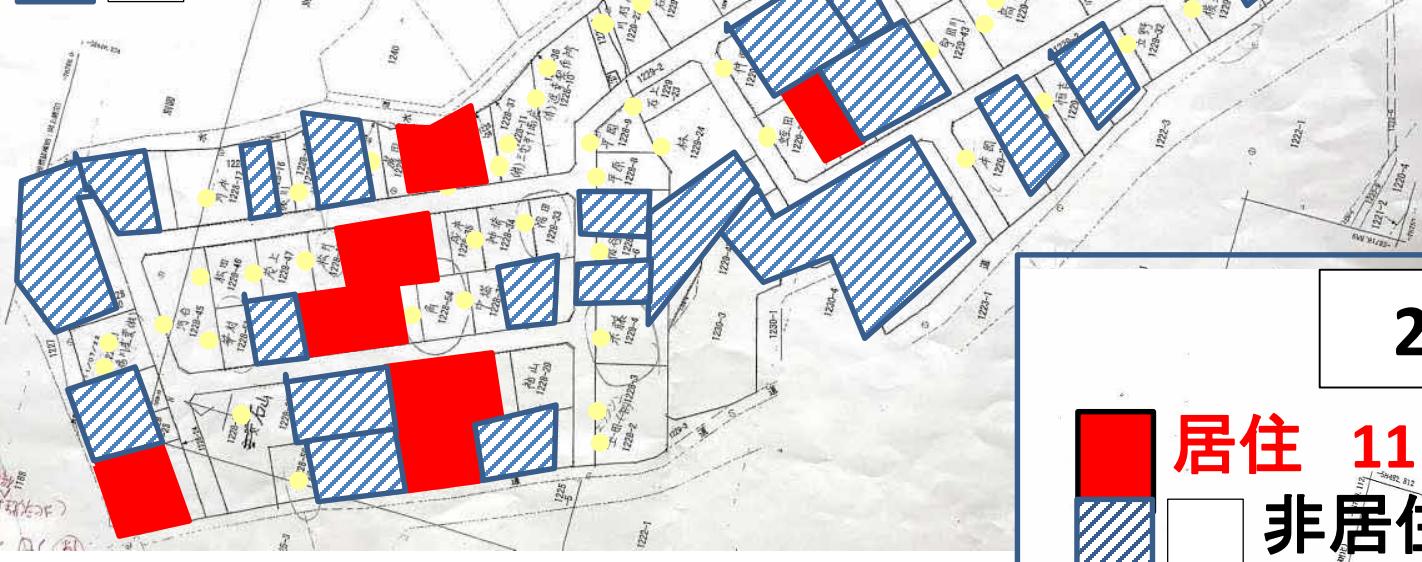
- ・2018年「高田湯の里団地管理組合」理事長として組合員有志で始めた活動。その後個人グループ活動を得て、現在は会員枠を地域外に広げ、地域の課題の相互解決を可能とする広義のマチづくりを目指す

活動拠点所在地 高田湯の里団地

総区画数 : 77区画

2010年

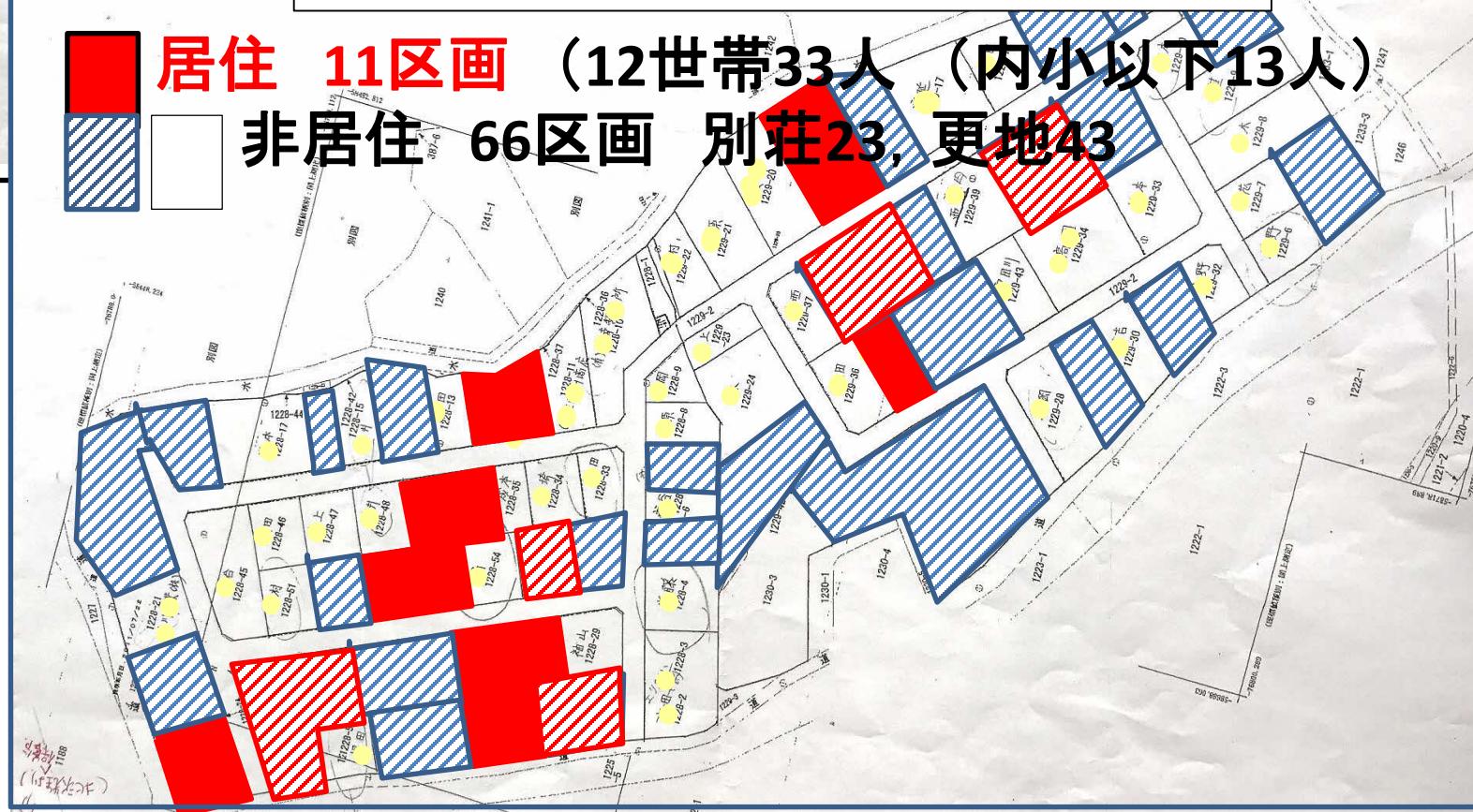
■ 居住 7区画 (7世帯11人 (内小以下2人))
■ 非居住 70区画



- ・人口は増えても希薄な関係性
- ・遊びあう子どもの親世代に「この地をなんとかしたい」の思いの強まり
- ・高齢組合員の「この地を再び」の希望を覚醒
- ・高田湯の里団地管理組合の目的
団地共有財産(道路・水設備)の管理

2018年 補助金活動スタート

■ 居住 11区画 (12世帯33人 (内小以下13人))
■ 非居住 66区画 別荘23, 更地43



- ・路線バスの廃止
- ・バブル崩壊
- ・更地半数 所有者不明区画点在
- ・町へと去る高齢者
- ・訪れる人のいなくなった別荘・土地
- ・草が生え荒れはてた道路

限界集落寸前

自治会・子ども会・活動財源がない地のまちづくり

課題と解決

活動主体がない

- ・希薄な人間関係にあって、人々を結びつける意味
災害時孤立した時、だれが守るのか。まず自分
人口増加と自治体への要望は比例する。地域の社会に対する貢献は
- ・**有志を募る**
- ・自治会・子ども会がない、更地が多い事を特長と考える。子どもが担当する
にあっては、企画の進め方の習得を通じた地域人材育成の場となりうる

地域に対する関心度の温度差 参加したい非居住会員の関わり方

- ・仕事の思い出話等から聞き得た得意分野を意識した活動内容を列挙し、
立候補を募り企画運営を任せる。(高齢者のサポートは特に綿密におこなう)
- ・会員から材料を購入、**非居住区画・土地を活動の場として貸与**いただく。
- ・全活動参加者に、**活動対価**として「**指定ごみ袋**」を時間に応じて支給。
- ・道具類の貸与・材料の提供等では対価を払う。

活動財源の確保

- ・**補助金**の(助成金)の受審・申請にチャレンジ
- ・県・自治体窓口**に相談**。補助金・助成金について伺い申請
- ・団体の目玉商品を作る

今後の活動

A. 体験講座 昨年度と同内容を継続

- ・講座(拠点)(スキル還元・継承、社会貢献、会員の交流)
- ・(出前講座) (社会貢献)
- ・「山体験講座」(地域内外の交流)(昨年度悪天候で中止)
- ・海と山をテーマとする講座(地域内外の交流)

B. ホタル池・周辺整備

- ・水草植生 (会員の交流)

C. 収益・広報

- ・フリマ・アプリでの出品増 (収益の拡大)(昨年度約3万円)
- ・YouTube (講座内容の発信)

D. 他

- ・来年度補助金(助成金)申請(補助金申請 最終)
テーマ 海と山をつなぐ工作・活動
- ・補助金申請文書作成相談・支援

まとめ 活動の成果

1. そこに住み続けることができるマチか

- スキルを活かした活動は、車での移動が困難な高齢者にあっても自らのスキルの発揮とともに次世代へ繋ぐ場となりえた。
- 水環境整備を通して災害時孤立しても生き延びられる空間作りを進めた

2. マチづくりに必要な人数・もの

- その「環境」を特長と捉え活かすことにより無理のない活動を可能とした
- スキルを有する会員を中心に1~2名で企画運営を行い、芝生植え付けや水質調査では他地域の方々の協力を得ることで、最小人数での活動を可能とした

3. 自治会がない地のマチづくり

- 希薄な関係性を活かす(例 会員の土地を活かす活動内容)
- チラシ送配布。地域への関心の機会と交流を促した
- 他地域の方々のスキル・環境を活かした活動としての展開の可能性
- 子ども会がない地にあっては、子ども育成の場としての位置づけ

限界集落化しても住める
環境の醸成

少ない人数・財源での
マチづくりの実践

人口減少化での
自治会運営のヒント

拠点地内での環境整備マップ(ハーブロード整備)



(令和3年度メダカ・ホタル池)



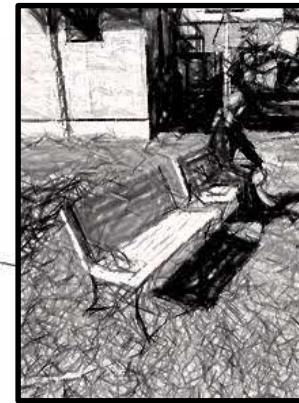
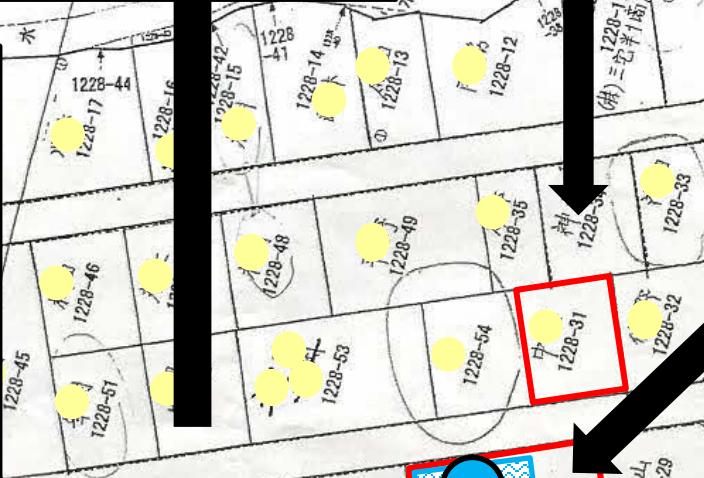
(令和2年度(2020年度)環境整備(ハーブロード))



(令和2年度(2020年度)環境整備(ミニ公園(水場)作成)



2018年度～令和元年度(2019年度)環境整備(ハーブロード)



情報発信

- ・ [広げよう 令和新時代創造県民運動](https://pref.tottori.jp)
(pref.tottori.jp)

への登録・講座・イベントの紹介

- ・ 出前講座の展開による活動内容の紹介と地域間交流
- ・ 県民フェスティバルへの出展(2023/1/15)
- ・ You Tubeを利用した講座の展開

受審・採択歴(2018年～2021年)

<p>2018 年度</p>	<p>平成30年度鳥取県トリリズム推進事業 鳥取県トリリズム推進補助事業(スタートアップ型(スタート支援)) 自然体験村を作ろう！—環境・スキルを活かしたマチづくり— 内容:別荘地でもある地域にあって建物が建てられることもなく荒廃した区画が広がる環境を良い形で将来につなげるため、地域「環境」と居住者と非居住者有志の「スキル」を活かし、「自然体験村」づくりを通して人々を結びつけ地域の活性化を図るとともに、自然体験の場の醸成を以て社会に資することを目的とした、5か年計画に基づく活動。 (申請者 高田湯の里団地管理組合 理事長 上田 輝美)</p>
<p>2019</p>	<p>令和元年度鳥取県令和新時代創造県民運動推進補助事業 鳥取県令和新時代創造県民運動推進補助事業(スタートアップ型)(継続支援) 自然体験村を作ろう！—環境・スキルを活かしたマチづくり— (申請者 高田湯の里団地管理組合 理事長 上田 輝美年度)</p>
<p>2020</p>	<p>令和2年度鳥取県令和新時代創造県民運動推進補助事業 鳥取県令和新時代創造県民運動推進補助事業(スタートアップ型)(ステップアップ支援) 自然体験村を作ろう！—環境・スキルを活かしたマチづくり— (申請者 上田輝美)</p>
<p>2021</p>	<p>令和3年度鳥取県環境保全活動支援補助金 夏休み！山まるごと体験教室！ 内容:会員の敷地や持山に自生する木々や竹を使って、メダカ釣り竿作りやメダカ釣り会等、山をまるごと満喫できる体験プログラムである。会組織とし、個人から団体へ、活動基盤の充実を図る。 (申請者 環境・スキルを活かしたマチづくりの会 代表 上田 輝美)</p>
<p>2021</p>	<p>とりぎん青い鳥基金 自然体験村を作ろう！環境・スキルを活かしたマチづくり 内容:身の回りの環境と会員のスキルを活かした、自然体験村としての通年プログラムとして展開し、活動の中で他限界集落との連携の方向性を目指した。また、ホテルの里再生を目指した水場環境の整備を通し、憩いと防災空間としての醸成を図った。 (申請者 環境・スキルを活かしたマチづくりの会 代表 上田 輝美)</p>